



発行日：平成 25 年 10 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

第 12 回山部会WGを開催しました！

9 月 14 日（土曜日）に第 12 回山部会WGが開催されました。
今回の WG では、山部会で取り組んでいる 4 つのうちのうち、山村再生担い手づくり事例集と矢作川流域圏木づかいガイドラインの 2 つについて話し合うとともに、森づくりガイドラインの進捗状況について情報提供がありました。



日時：平成 25 年 9 月 14 日（土）9:30～12:00
場所：旭高原元気村 研修室
参加者：16 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 矢作川流域圏森づくりガイドラインの進め方（進捗状況）



矢作川流域圏森づくりガイドラインは、流域圏の森林はこのような森林であって欲しいと願う姿を示し、同時にそれを実現するための手段について、提示することを目的としたガイドラインです。

このガイドラインづくりには、流域圏を構成する行政の方の参加が不可欠であるため現在、関係行政機関への主旨説明を行っているところです。次回の第 13 回山部会 WG で関係行政機関の方にもご出席いただき、ガイドラインの策定準備が開始される予定です。



2. 山村再生担い手づくり事例集について



10 月の下旬から 12 月にかけて、山村再生担い手づくり事例集の作成に向けた取材調査（山村の担い手のいる現場に行って、直接、現場の人たちの苦悩や喜び・課題に触れることを目的とした調査）を行う予定です。

今回は、取材調査の募集方法や具体的なスケジュールについて話し合いました。10 月の取材調査開始に向けて、取材者への連絡などの準備が進んでいます。



3. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



今回は前回に引き続き「木づかいガイドラインははじめの一步」として、大好きな森や木についての素敵な本をガイドラインに見立て、参加者の方々が「これから作りたい素敵な本の内容とはどのようなものか」について意見を出しました。

また、第 10 回、第 11 回山部会 WG で行ったブレインストーミングの結果についてもふりかえり、今後、どのようなガイドラインを作っていくか話し合いました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見

●山村再生担い手づくり事例集について

山村再生担い手づくり事例集の作成にあたり、取材調査の実施にあたっての具体的なスケジュールと取材者増加に向けた方法について話し合いました。会議の中で出た意見を反映し、取材者を集いつつ、10月の調査に向けて準備を進めます。

出た意見

- 取材者をもう少し増やす必要がある。流域圏のメンバーを基本として個別に呼びかけを行ってほしい。
- 仮に人数が増えなかった場合、その人数で複数地点を取材してやりきることとする。

2013年度スケジュール案

- 今年度のスケジュールを以下のように予定しています。

・～8月25日(日)	取材先の連絡先・連絡方法確認(各地区担当)
・～9月6日(金)	取材先への連絡と取材の可否確認(事例集事務局)
・9月7日(土)～9月27日(金)	取材者の募集(事例集事務局)
・10月1日(火)～10月14日(火)	取材先と取材者のマッチング(事例集事務局) 取材者への連絡(取材方法と取材先の通知)
・10月15日(水)～12月28日(土)	アポイントメント、聞き取り、レポート提出(取材者)
・1月6日(月)～2月28日(金)	振り返り 2013年度山村再生担い手づくり事例集作成



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインの作成のはじめの一歩として、「森や木を前にして、これではいけないので、もっとこうなればなあ、こんな風になればいいのに」と感じるということについて、ブレーストーミング方式で意見を出し合いました。主な意見は以下です。

【木づかいガイドラインのイメージについて】

- 山の暮らし、森の暮らし、木のある暮らしという点では音の風景というものが強い。木を切る音、薪を割る音がすると冬がやってくるという感じる。(黒田)
- 山の中で田んぼ仕事をしていても木のざわめきなどがすると寂しい感じがしない。最近は木造のいい建築物などが減ってきたが、日本人はこの100年間で木の価値を知らないまま作り替えてきた印象もある。(沖)
- 音の風景に加えて木の匂いや森らしい癒される絵などがあれば、視覚に訴えかけできると同時に心のスイッチが入る。また、木や森に関する世の中の誤解を解消するようなネタが、本の中にコラム的に入っていると面白い(長谷川)
- かつては木造2階建ての小学校があった。そういうのを見ると懐かしい気持ちになる。(後藤)
- 森林の減少や重要性について日常生活でなかなか触れられないのでそのあたりを本の中で訴えられるとよい。(西原)
- プロの方が知っているマニアックな内容があると取り付きやすい。(森)
- トトロなどのアニメを通じ、木や森を知った。森の不思議なところをドラマやアニメで表現することは有効だと思う。(石原)
- 心のスイッチは魚釣りのときに入る。明らかに魚が釣れそうな雰囲気がある場所を見つけるとワクワクする(南木)
- 学校は学問を教えるところではなく、感性を教えるところだと言われている。人工物であるコンクリートで造られたマッチ箱のような校舎で感性が養われるわけがない。その意味で「近代化・人工物が優れているところ」をこれから改めて見直していく時期と考えている。(原田)
- これからの世代を担うこともたちにも読んでもらうことが重要。専門書とうよりもう少し柔らかいイメージがよい(松井)
- 宮沢賢治の「狼森と笹森、盗森」という本が好き。木が語る言葉を理解できる人が、森の中を歩いている時に、木が人間に話しかけてくる本があると素敵。木の言葉を聞きに森の中に行ってみたくなれるとよい。(洲崎)
- これまでに人間が行ってきた近代化や、木の話していえば密閉化された構造物などの解消に取り組むなど、今一度見つめ直ししていくことが必要だと思う。(長澤)

【木づかいガイドライン(市民編)】

みなさんの意見をひまえ、今後、どんな木づかいガイドラインにしたいか考えていきます。

読むと行動したくなる本／読むと人に会いたくなる本／読むと人に話したくなる本／読むと人にあげたくなる本／読むと市民として参加できる本／読むとライフスタイルに影響を与えられる本／読むといいものと出会ったことを実感させられる(わくわくする)本／自分たちが作ったから人にあげたくなる本／自分たちが作っておいて良かったと思う本／「矢作川ディズな人たち」を定義してしまう本(イメージ)



今後のスケジュール(予定)と情報提供



次回のWGを10月21日(月)に豊田市職員会館にて開催する予定です。
第6回いい川・いい川づくりワークショップが11月2日・3日に開催されます。

